

人的リスクと保険の利用(死亡編)

先月号では経済の柱である者の死亡による家計への影響について触れたが、読者の皆さんは向き合っているだろうか…。死を想定すること自体が不謹慎と思われるかもしれないが、死亡リスクを完全回避できない以上、それに備えることは家族に対する責任と言えるのではないだろうか。自分の死を想定することは日常的にある訳ではないが、あえて考えなければならぬ問題だ。こじつける訳ではないが、7月15日・9月19日の水害も、備えがなかった世帯の多くに発生してしまったことを考えれば、潜在するリスクを事前に想定した対策が取られていなければならない。物事を考え始めるには、とかくきっかけが大切だ。分かっているだけでも、「そのうちに…」とついつい先送りになっていることが実に多い。私自身がリスクに関するコラムを書き始めたのは7月豪雨がきっかけだし、それぞれの世帯にとっても、リスクを客観的に考え始めるには、いい意味で良いきっかけになるのではないだろうか…。“いつかは終わる命”、死そのものを回避はできないが、いまできることを考えてみよう。

できることというのは、何も保険への加入だけではない。健康の維持管理や安全運転での交通事故の回避など、死亡リスクの低減はできるはずだ。京都大学の井上浩輔特定准教授らのチームは、「週に1〜2日、8,000歩歩くだけで死亡リスクを下げることができる」との研究結果を発表し、米国医師会雑誌(JAMA)に掲載された。また、禁煙をするだけでも死亡リスクを低減できることは誰もが知るところだ。そして、ウォーキングの習慣は糖尿病・認知症・死亡のリスクを減少させることができるという。これらを複合的に行うことによって、その効果はさらに高まるというものだ。

多くの物事を達成するには、兎にも角にも意識改革が必要だ。7月豪雨がきっかけの今回のリスクに対する特集だが、リスクと向き合うということは、これだけに限らず生活の様々な場面で活かされるはずだ。そして、いまここで考えようとしているのは、死亡という不測の事態による経済的損失から家族の生活を防衛するという点にある。

では、一般的なサラリーマン家庭ではどうだろうか?!? 仮に保険料相当額を資産運用したところで、家族の生活を防衛できる金額にはほど遠いと言わざるを得ない。だとすれば、死亡リスクと真摯に向き合い、家族を護るための方法としてどちらが相応しいかを改めて考えていただきたい。少し脱線するが、自動車保険の補償で車両保険料を払うくらいならその分を貯めておいた方が良いという声もよく聞く。これもつともという声もあるだろうが、この場合であってもそれぞれの経済力が関係してくる。数百万もの車をマイカーローンで購入し、豪雨災害で水没してしまった

保険と蓄え貯蓄・運用
いまいまだ死ぬ予定もないから、死亡リスクへの対策は生命保険への加入ではなく、その予算を使って資産運用した方がいいという方もいる。さて、その考え方はどうなのだろうか…。誰だって、今すぐ死ぬということを想定する人は居るはずもないし、そんなことは当たり前である。しかし、望む望まざるに限らず、その時は突然に訪れるかもしれない。保険の良し悪しの問題ではなく、死亡リスクに対応する方法としてどちらが相応しいかだ。一方、高額の資産家であれば、それはそれで別の事情で生命保険を利用する。その事情とは、遺産分割や相続税の軽減・納税などの準備であり、相続対策として効果的だからだ。

Vol. 175

知恵袋

生活

生活に
何かと役立つ
連載コラム

つぶやきがんちゃん



つぶやきがんちゃん

齋藤 廣勝
(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート
代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー
- ・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

“水災への備えは十分ですか?”

この度の豪雨災害により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今回の水害によって、多くの方が建物や自動車に多大な損害を被りました。今後に備えるためにも、現在ご加入中の損害保険の補償内容チェック・見直しが大切です。弊社では、ご加入中の各種保険の無料診断を行っていますので、お気軽にご相談ください。



お気軽にご相談ください。

株式会社
total life support 募集代理店 トータルライフサポート

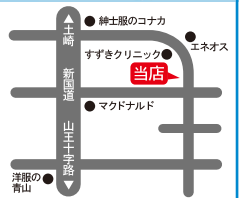
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間/9:30~18:00(土・日・祝日は9:30~17:00)
●定休日/水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL http://tls-akita.co.jp

詳細は
ホームページでも
ご覧いただけます。



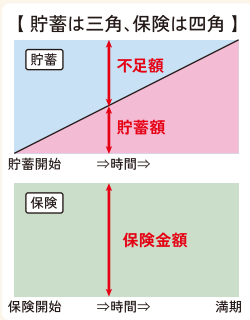
場合はどうかであろうか。車両保険に入っていれば、ローン残高のすべてを完済できるが、そうでなければ自腹で支払わなければならない。支払いをすべて終えない限り、ローン会社が所有者になっていく車の「所有権解除」の手続きができないため「永久抹消登録（廃車）」の手続きができない。自動車税の支払いも続けし、自賠責保険の解約もままならない。業者に自動車の解体をしてもらい、解体証明書が準備できた後でなければ手続きはできない。そして最大の問題は、次の車をどうするかであり、家計に与える影響は決して小さくはないはずだ。保険の必要性は、生命保険も火災保険、自動車保険のいずれにしても、それぞれの世帯の経済状況によって大きく異なるのである。ネット上などで断定的な書き込みもあつたりするが、保険の良し悪しで判断するものでもないし、それぞれの環境に合わせた判断でなければならぬ。

■保険と貯蓄、どっちがどっち！

必要性がそれぞれの世帯事情で異なることは、先に書いた通りだが、保険と貯蓄の位置づけはどうか。考えたいかを考えてみよう。

下の図のように、貯蓄の場合には、毎月あるいは毎年、コツコツとお金を積み立てていくもので、年月とともに貯蓄は増え、貯蓄額は右肩上がりの「三角形」となる。事故や災害がお金が貯まった頃に起きるのであればまだしも、予期

しない大きな災害などのリスクをカバーするのは難しい。一方、保険は加入後に定額の保障が始まり、保険料を払い続けることで、まとまった保障が継続するので「保険は四角」である。事故や災害での方が一に備える家族の保障を考慮するのであれば、保険の利用が相応しい。だとすれば、どっちが良いかの問題ではなく、目的がどこにあるかでおのずと答えが見えてくるというものだ。しいて言えば、「どっちかではなく」とも「必要であり、それぞれの世帯事情に合わせたバランスを考えた利用でありたい」。



■利用すべき保険の種類

死亡リスクに対応する保険の種類にはどんなものがあるのだろうか…。一概に生命保険とは言っても、その種類は多種多様で一般人がその中から選ぶのは至難の業だ。生命保険は難しくても、分らないという声を聞くが、「もつともだ。だからこそ、お客様のライフプランに沿った貯蓄計画や保障などを総合的にアドバイスのできる専門家に相談する必要があります。ここで、保険の種類と選択方法を説明したいところ

だが、数ある保険会社とそれぞれの保険種類や特徴など、その全般を説明しようとするとは面がいくらあっても足りないくらいだ。近年の保険種類は、ひと頃とは比べ物にならないくらいに多種多様なものが登場しており、一概に基本形である終身保険や定期保険、医療保険ではなく、ライフイベントに沿った貯蓄と保障のバランスも考えなければならぬ。そして、保険加入自体が目的でないならば、目的如何によっては、保険以外の選択肢も当然出てくる。要は「どちらが効果的か」であり、保険ありきであってはならないのだ。だとすれば、どこに相談する

【生命保険の分類】

生命保険		
死亡リスクに備える保険	病気やケガに備える保険	将来の資金不足に備える保険
<ul style="list-style-type: none"> ●終身保険 ●定期保険 ●収入保障保険等 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療保険 ●がん保険 ●就業不能保険 ●介護保険等 	<ul style="list-style-type: none"> ●個人年金保険 ●養老保険 ●学資・こども保険等

表のように分類はしたものの、そこから派生するものの全てを説明しきるのは至難の業である。例えば、終身保険一つをとっても、「定額」「変額」「円建て」「外貨建て」などがあり、こうなっ

ると、生命保険は難しくても良く分らない。先に触れたように、どれが良いということではなく、それぞれの環境においてどれが相応しく、どう組み立てるかがポイントだ。負担を抑えるためにも社会保険の知識は必須だし、ライフイベントに沿った貯蓄と保障のバランスも考えなければならぬ。そして、保険加入自体が目的でないならば、目的如何によっては、保険以外の選択肢も当然出てくる。要は「どちらが効果的か」であり、保険ありきであってはならないのだ。だとすれば、どこに相談する

■何処にどう相談するか…

以前に、「金融リテラシー」を身に付け、自ら考え、判断し、行動する能力を…と説いてきたが、実際のところ、全ての知識・情報を手にし、的確な判断をするなんてことは至難の業だ。だとすれば、然るべき相談先を持つことは極めて重要だ。何度も言うようだが、保険加入は手段であって、それ自体が目的であってはならない。だとすれば、夢や目標、目的を明確にする作業から始めなければならぬし、家計の全般に渡る相談に対応してもらえる「家計のホームドクター」としての相談先を持つことをお勧めしたい。

■来月号は

具体的な保険種類とそれぞれの活用方法をお伝えしよう。